

事業番号

2023 - デジ - 22 - 0001 - 07

令和5年度行政事業レビューシート

(デジタル庁)

事業名	公共サービスメッシュ(デジタル連携基盤)			担当部局庁	デジタル社会共通機能グループ	作成責任者	
事業開始年度	令和3年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	情報連携基盤刷新班、事業者等情報連携班	参事官 杵浦 維勝	
会計区分	一般会計						
根拠法令(具体的な条項も記載)	デジタル社会形成基本法第31条 デジタル庁設置法第4条			関係する計画、通知等	・デジタル社会実現に向けた重点計画(令和5年6月9日閣議決定)		
政策	情報通信技術等の適正・効率化に関する施策の推進			主要経費	その他の事項経費		
施策	情報システムの整備						
政策体系・評価書URL	https://www.digital.go.jp/policies/assessment/						
事業の目的(5行程度以内)	品質・コスト・スピードを兼ね備えた行政サービス(「スマホ60秒で手続き完結」「7日間で行政サービスが立ち上げられる」「民間並みコスト」)実現に向けて、本事業は、情報連携の基盤について、ベース・レジストリとして整備されたデータ等を行政手続等で活用する際に、その行政インターフェースとベース・レジストリを連携させるために必要となるシステム等を設計・構築し、行政システムが必要とする共通機能のコンポーネント化や API 整備等の取組を進め、システムの疎結合化を進める。						
現状・課題(5行程度以内)	現状、行政サービスについて、住民の利便性の観点においては、自分が利用できるサービスを見つけにくく、また、手続きの際に時間も手間もかかるといった課題がある。また、行政サービスを提供する職員の間においては、新たなデジタルサービスをリリースするたびにシステム対応のコストが発生し、かつ、時間がかかるといった課題がある。さらに、国全体のコストの観点においては、デジタルサービスが更に普及する一方で、国や自治体で個別にシステム整備をするコストが増大するといった課題がある。						
事業概要(5行程度以内)	社会全体のデジタル化を促進するためには、共通的に使用されるベース・レジストリや、様々な行政手続のインターフェースとの相互連携を円滑に行う機能を備える必要がある。そのため、セキュリティレベルの高いデータの連携に広げたプロトタイプによる検証を進める。						
事業概要URL							
実施方法	委託・請負						
補助率等							
予算額・執行額(単位:百万円)(インプット)	予算の状況	当初予算(A)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
		補正予算(B)	-	-	-	-	-
		令和5年度第1次補正予算					
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	-
		予備費等(E)	-	-	-	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	-	-	-
		執行額(G)	-	-	1,019		
執行率(%) =(G)/(F)	-	-	-				
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	-	-	-				
令和5・6年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	計(A)		-	-			

活動内容① (アクティビティ)	行政サービスを利用する人が、スマホ60秒で手続きを完結できるように、手続きにおける、プレ表示機能やプッシュ機能などを実現する。また、民間サービスも行政サービスのフロントエンドを担えるようにすることで、国民がより多様な UI・UX を選択できるようにするとともに、多様なサービスの新規参入を促す。こうした利便性の高いデジタルサービスを更に推進するため、公共サービスメッシュ(デジタル連携基盤)の実現を目指す。								
↓									
活動目標及び活動実績① (アウトプット)	活動目標 公共サービスメッシュ(デジタル連携基盤)の整備	活動指標 接続するシステム数		単位 システム	令和2年度 -	令和3年度 -	令和4年度 -	5年度 活動見込 -	6年度 活動見込 -
成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	情報連携の基盤となる公共サービスメッシュ(デジタル連携基盤)については更なる添付書類の削減やプッシュ型サービス実現のため、行政が保持するデータを様々なユーザーやシステム同士で安全・円滑に連携できるように、行政機関間のバックオフィスでの情報連携・地方公共団体内の情報活用・民間との対外接続を一貫した設計で実現する。具体的には、行政機関間のバックオフィスでの情報連携については、現行インフラを新たな手法に転換し、令和7年度中に新たなシステムを整備する。プッシュ型サービス実現のための地方公共団体内の住民情報の活用については、令和7年度中にガバメントクラウド上で必要なモジュールを整備し、地方公共団体の任意に応じて活用できるようにする。								
成果目標及び成果実績①-1 (短期アウトカム)	成果目標 接続するシステム数の拡大	定量的な成果指標 接続するシステム数		単位 システム	令和2年度 -	令和3年度 -	令和4年度 -	目標年度 10年度 -	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	公共サービスメッシュ(デジタル連携基盤)に接続されるシステム等について、担当課室において把握するものを以て成果実績として用いる。								
成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)									
成果目標及び成果実績①-2 (中期アウトカム)				単位 %	令和2年度 -	令和3年度 -	令和4年度 -	目標年度 -年度 -	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績									
成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	情報連携の基盤となる公共サービスメッシュ(デジタル連携基盤)については更なる添付書類の削減やプッシュ型サービス実現のため、行政が保持するデータを様々なユーザーやシステム同士で安全・円滑に連携できるように、行政機関間のバックオフィスでの情報連携・地方公共団体内の情報活用・民間との対外接続を一貫した設計で実現する。具体的には、行政機関間のバックオフィスでの情報連携については、現行インフラを新たな手法に転換し、令和7年度中に新たなシステムを整備する。プッシュ型サービス実現のための地方公共団体内の住民情報の活用については、令和7年度中にガバメントクラウド上で必要なモジュールを整備し、地方公共団体の任意に応じて活用できるようにする。								
成果目標及び成果実績①-3 (長期アウトカム)	成果目標 接続するシステム数の拡大	定量的な成果指標 接続するシステム数		単位 システム	令和2年度 -	令和3年度 -	令和4年度 -	目標最終年度 10年度 -	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	公共サービスメッシュ(デジタル連携基盤)に接続されるシステム等について、担当課室において把握するものを以て成果実績として用いる。								
アウトカム設定について の説明	アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								



資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
役務費	委託(株式会社エヌ・ティ・ティ・データ)	1,019			
計		1,019	計		

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	9010601021385	公共サービスメッシュの構築に向けた調査研究	970	一般競争契約 (総合評価)	1	98%	
2	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	9010601021385	公共サービスメッシュの構築に向けた調査研究(変更契約)	50	その他			
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							チェック	